allcinema

監獄ロック（1957）

JAILHOUSE ROCK

メディア 映画
ジャンル 青春　音楽　ドラマ
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　102分
初公開日 1962/11/23
公開情報 大映

【解説】

威勢のいい労働者青年ヴィンスが女をめぐっての喧嘩の末、相手を殴り殺し１４ヶ月服役。同房の元Ｃ＆Ｗ歌手のハンクはやり手で、タバコを金代わりに所内の経済をしきっている。ヴィンスの唄の才能を見込んだハンクは彼にギターを仕込み、ＴＶ中継される所内慰安ショウに彼を出演させた。すると大変な反響でファンレターが続々。それを所長のところでせき止めて、一計を案じたハンクは、ヴィンスの出所後、彼を売り出そうと折半の契約を結ぶ。そして、若いヴィンスに、娑婆では金がすべて物を言うーーと念入りに言って聞かせた。彼の紹介でクラブを訪ねたヴィンスだが、歌の最中に騒いだ客相手に暴力をふるってすぐに飛び出した。だが、彼を気に入ったレコード会社の女営業担当のペギーが、彼を自社の社長に紹介してくれた。ところが、自分の曲をそこの看板歌手に奪われた格好となり怒った二人は、自分たちの会社を興し、デビュー曲は大ヒット。敏腕弁護士をつけ、ＴＶショウや映画へと乗り出していくヴィンスは次第に金の亡者となり、ペギーと反目、出所したハンクをもあごで使う見下げ果てた男になってしまうのだが……。エルヴィスの実像にかなり近いのではないかと思える不良っぽいキャラクターを、彼は５０年代のスターに共通するすねたような眼差しの魅力をフルに発揮して、甘くワイルドに演じる。これぞロックン・ローラー、エルヴィス。刑務所の暴動ではここぞとばかりに看守を殴り、ペギーの両親のパーティに招かれれば、モダン・ジャズ談義に華を咲かすスノッブな大人たちを、何話してんのか分かんねえ、と一喝。安直な後半の展開は納得のしようがないが、なんとなく作品としても荒んだムードが、その後のエルヴィス映画とは全く趣を異にして、これはロックのうるさ型にも訴えるイカす一編である。

【クレジット】

監督	リチャード・ソープ	Richard Thorpe
製作	パンドロ・Ｓ・バーマン	Pandro S. Berman
原作	ネッド・ヤング	Ned Young
脚本	ガイ・トロスパー	Guy Trosper
撮影	ロバート・ブロンナー	Robert Bronner
音楽	ジェフ・アレクサンダー	Jeff Alexander
出演	エルヴィス・プレスリー	Elvis Presley
	ジュディ・タイラー	
	ディーン・ジョーンズ	Dean Jones
	ミッキー・ショーネシー	Mickey Shaughnessy
	ヴォーン・テイラー	Vaughn Taylor

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.